

〔翻 訳〕

『スペクテーター』(47)

——第440号から第449号——

門 田 俊 夫

第440号 1712年7月25日（金曜日）

【アディソン】

きちんとした生き方ができないのなら、
賢人に道を譲りなさい。（ホラティウス）¹⁾

手頃な個室だけでなく、気分がすぐれないとか不機嫌な人を受け入れる広い療養所となる大きな館がある田舎で夏場を共に過ごす愉快な人々の一団についてはすでに読者にお伝えしたことがあります²⁾。この団体の秘書から一同を代表して、私の元に先週の振る舞いを知らせる手紙が届きましたので、これを皆さんに公表したいと思います。

観察者殿

洗練された物腰と心地よい会話を取り戻すために当地に設置した施設を貴殿が賛同してくださったことを知り嬉しく思っています。そこで私たちは、来る冬に備えて町でお手本になるようにこの夏の隠遁生活において自己向上に向けて最善の努力をしたいと考えています。当会が私たちだけでなく皆さんのためになることを目標としています。そこで貴殿にもしお気づきの点がございましたら警告を発していただきたいものと考え、私たちの一週間の出来事をお伝えする次第です。ご承知願いたいのですが、当会に貴殿を客人としてお招きしたいのです。さらに付け加えておきますと、大学のある人物が自分は『スペクテーター』は気に入らないと明言しました。だが、その理由を挙げることはできませんでしたので、私たちは満場一致で彼を療養所送りにしたわけです。

月曜日：朝、フランス産赤ワインを補充し一同はとても上機嫌でした。しかし、残念なことに、ディナーの最中に、ある人物が自分のワインに水を入れすぎているということで、召使に非常に乱暴に毒づいたのです。それに対して、いつも一同のまとめ役となっているその日の座長は、彼に癪癢の不適切さとみんなに与えた無礼を説き伏せ、召使に彼を退席させ、療養所に連れて行くように命じました。この日療養所送りとなったのはもう一人い

1) ホラティウス『書簡詩』2.2.213

2) 第424号、第429号参照。

ました。この紳士は、大変な才人と見なす人たちもいましたが、別の人たちからは町ではどうしようもない間抜け者と見なされている人物でした。奇妙な性格だと思われるでしょうが、事実そうなのです。と言いますのは、この紳士はいつも過度にはしゃいだり沈んだりして、絶え間なく性格が逆転してしまうのです。私たちの気を紛らわすために彼を連れてやって来たのです。四輪馬車でやって来る途上では、彼は巧みに機知と笑いを発揮しました。田舎に滞在中もこれがうまく発揮されるものと考えていました。彼は最初の2、3日は低調でしたが、持ち直すものと期待して黙認していました。だがそれも限界に達して、楽しくないと言ったために療養所送りとなりました。彼が長い間沈みこんでいると判断し、それを一同への侮蔑と考えた座長は、こういった人たちのために用意している療養所に引きこもるようにと命じたのです。彼はそこに入ると直ぐに機知と陽気さが激しく蘇ってきましたので、その騒々しさと療養所が揺らぐほどでした。これが患者たちに大きな効果を生み出し、翌日にはみんなして食卓の席に着くことになったのです。

火曜日：一同が席に着くや否や、一人が頭痛がすると訴えました。それに対してある人が横柄にどうしたのだと尋ねました。これはいつの間にか興奮したやり取りになりました。そこで座長は秩序を乱さないために、この二人を退席させ療養所に行くようにとの指示を出しました。ほどなくして、ある人物が肩の痛みから分かるのだが雨が降ると言いましたので、座長は彼に退席を指示し、上記の部屋つまり療養所で晴雨計として頑張るようにと命じました。

水曜日：女性の筆跡の手紙を受け取り、読みながら二度三度と顔色を変えている紳士が、療養所に入りたいとの希望を出しました。座長はその願いを聞き入れましたが、一晚寝て考えるまでは、ペンとインクと紙の使用を禁止しました。テーブルの末席に座っている人物が、出される料理にけちをつけて密かな不満を露にして、どんな話題にも苦虫をつぶしたような表情をしていました。すると座長は、その人に向かって、落ち着かないようだから療養所に入った方がいいですねと言いました。夕食後、あるとても誠実な人物がふと駄洒落を口にしますと、その隣の人物が、「療養所へ」と大きな声を上げました。生来駄洒落を嫌悪する人もいますし、気分が悪くなると主張する人もいます。これはネコを毛嫌いな人がいるのと同じことです³⁾。これは長時間の論争となりました。全体として、駄洒落を言った人が無罪放免となり、隣人が療養所送りとなりました。

木曜日：違反者は一人だけでした。この人物は声は大きい理解力の乏しい紳士でした。不幸なことに、彼は並外れた良識の持ち主ですが訥弁の人物と論争になったのです。この激情家は、相手の返答に対してことごとく平素よりもさらに大きな声でやり返し、自分の主張を押し付けるべきときにのみ声を高めるのでした。ついに自家撞着に陥ったと分かると、彼はそれでも、聞いている人たちに大きな印象を与えるために、騒々しくかつ曖昧に理屈を並べ立て、テーブルをバンと叩いて結びとしました。座長は直ちに彼に退席し、会話の熱が冷めるまで薄いお粥の食事をするようにとの指示を出しました。

3) 第538号、第609号参照。

金曜日：拘留中の人々を解放して欲しい、今後はお互いの立派な振る舞いを請合うという何通かの嘆願書が読み上げられた以外には目立ったことはほとんど起こりませんでした。

土曜日：非社交的な気質に陥り、自発的に閉じこもった人々からの言い訳を数多く受け取りました。療養所が本日ほどにぎわったことはありませんでした。戸外に出て東風が吹いている⁴⁾と気がつくまでは、私はこのことをどのように説明していいか途方に暮れました。私の友人のほとんどが拘留の身になりましたので、貴殿にお手紙を差し上げる暇ができたのです。締め括るにあたりまして、拘留中の人だけでなく自由の身の人も含めてわが会の全員は貴殿の信奉者であることを申し上げておきたいと思います。

敬具

第441号 1712年7月26日（土曜日）

【アディソン】

彼を取り巻く自然の全体系が崩壊し、廃墟と混乱に巻き込まれても、
彼は平然と強大な亀裂の音に耳を傾けながら、崩壊してゆく
世界の真ん中で無事に立っているに違いない。(ホラティウス)¹⁾

人間というものは、考えて見ると、非常に無力で非常に惨めな存在です。人間は絶えずこの上ない苦難や不幸に見舞われます。至る所に危険が待ち構えており、予見できない、あるいは、予見しても防ぐことのできない多くの惨事に見舞われると不幸になります。

私たちは数多くの出来事を免れませんが、不慮の事故を指揮し、私たちを悩ませたり傷つけたりできるあらゆることを操縦している方の庇護下にあることが慰めとなっています。神は私たちが必要としている援助をご存知で、それを求めている人々にいつでも授けてくださいます。

無限の知恵と善を備えた方に抱く当然の敬意は、人生の祝福と安楽を与えてくださる神への確固たる信頼と降りかかる危険と困難から救い出してくださる神への不断の信頼なのです。

以上のような心持で暮している人は、人間性に対しては神との関係が希薄な人々のように暗くて憂鬱な見方はしません。自身の弱さと不完全さに思いを馳せると同時に、自身の安全と幸福のために発揮される神の属性を考えて自らを励まします。自らの洞察力不足は後援者である神の全能がそれを補っているのです。後援者が全能であると分かれば、自らの力不足を意識することはありません。要するに、神に確固たる信頼を置いている人は、その力は強力で、その知恵は豊かで、その幸福は満ち足りたものとなります。あらゆる神の属性の恩恵を手に入れ、無限の完璧さに包まれて自らの不足を感じなくて済むのです。

私たちの生活をより安楽なものにするために、このようにして私たちの不安を取り除き

4) 第241号参照。

1) ホラティウス『頌詩』3.3.7-8

救ってくださる神を信頼するように命じられているのです。神の優しさによって、こうした信頼を置くことは義務になっています。もしこの義務が禁じられていたら、私たちは惨めな存在になっていたに違いありません。

この義務を私たちに勧めるために用いられるいくつかの動機の中でも、私は特に以下の動機に留意したいと思います。

最初で最強のことは、神は神を信頼する人々を見捨てないということが約束されている点です。

この義務に伴う不可思議な祝福を考慮しなければ、義務には当然報いがあると言えるかもしれません。言い換えると、万物の大いなる監督者に対する確固たる信頼は、いかなる苦悩も取り払ってくれたり、苦悩に雄々しく耐えたりするさいの大きな助けとなります。自分にはそばに救い手がいる、そしてまた、後援者の目の届くところで振舞っているのだと信じている人は、しばしば自らの能力以上の力を発揮しますし、成功の確信に鼓舞されない人には不釣り合いな驚くべき好結果を生みます。自分たちは何か目に見えない助力者に守られているという信念から、兵士たちに全力を尽くすように励まただけでなく、自分たち自身もこういった信念に鼓舞されていなかったら、発揮できなかったと思えるほどの振る舞いをした将軍たちの歴史から実例を挙げることができます。同様に、全能の神への信頼が当然のこととして、私たちが取り除くことのできない苦難を和らげる忍耐、希望、快活さ、およびその他あらゆる気質を生み出しているさまを示すことができます。

この徳の実践は、貧困と苦悩、とりわけ、死に見舞われたとき、人々の心に大きな慰めを与えます。離別の今わの際に魂がさまよい、別の存在へと入って行きまったく目新しい場面や眺めや仲間と交わろうとしているとき、震え戦く思い、恐怖、不安、懸念に襲われる魂を支えるものは何であろうか。それは魂に最初に命を与えてくれ、魂をその舞台に導き、永遠の世界にまで終始導きと慰めを授けてくれた神にすぎることしかないので。

ダビデは詩篇第23篇でこの全能の神への信頼を実に見事に語っています。これは一種の牧歌的な賛美歌となっており、この種の作品でお馴染みの引喩がふんだんに盛り込まれています。詩はとても優美なものですので、読者につぎの翻訳で提示したいと思います。

I

主はわたしに牧草地を用意なされ、
わたしは羊の世話をするので食を得ている。
主の存在によって、わたしは必要なものが手に入り、
主はわたしを注意深く見守ってくださる。
真昼の散歩時には主が付き添ってくださり、
真夜中は主が守ってくださる。

II

うだるように暑い場所でわたしが気を失ったり、
渴いた山であえいでいたりすると、

主はわたしの倦み疲れた歩みを
肥沃な谷間や露をおびた牧草地へと導いてくださる。
そうです、青々とした景色の中で、
穏やかでゆっくりと流れる川のある場所へと。

III

一面を陰惨な恐怖に覆われた死の道を歩むとも、
わたしの確固とした心は恐怖を抱くことはない。
なぜなら、主がわたしとともにおられるから。
あなたの優しい杖がわたしを助けてくださり、
恐ろしい死の陰の谷を導いてくださる。

IV

曲がりくねった寂しい荒野のむきだしの険しい道を
さまよえども、あなたの恵みがわたしの苦痛を和らげてくれる。
不毛の荒野は突如緑の草に覆われて微笑み、
辺り一帯に小川の流れがさらさらと音を立てる。

第442号 1712年7月28日（月曜日）

【スティール】

巧拙を問わず、あらゆる人がペンを手にするに違いない。

（ホラティウス）¹⁾

いろいろな人に、この思索の仕事のお手伝いをしていただきたいとお願いしたとき、私自身のことを皆さんに十分説明しなかったのではと思います²⁾。寄稿者の方々から時々受け取る手紙や貴重なご意見に加えて、（誰もが公表されるものと思っているのですが）観察者の手を加えないでそのまま公表してもらいたいとの意向で風変わりな論考が送られてきていることを、読者の皆さんにはまだお知らせしていないのです。同時に、当新聞を最初に企画した私自身は、こういった寄稿された手紙などを私の文体に色づけし、私に似つかわしくないものを削り、私の新聞の性格や精神に適合させるために適切と思われることを付け加えることで自分のものにする権利があると考えていると認めなくてはなりません。人が違えば考えが同じであることはほぼあり得ないことですし、人の数だけ観察者の数も多くなりますので、私の手が入りますと、寄稿者の意見ときちんと合致することはありません。おまけに、私は名声が大好きですので、寄稿者の意見を聞くとしましても、それによって私の気持ちが揺らがないう程度になります。つまり、私以外の人は「スペクテイター」を書くことは出来ないと思うわけです。また、そういった論考にざっと目を通してみます

1) ホラティウス『書簡詩』2.1.117

2) 第428号参照。

と、内心ひそかに、これを書いた人々に対して敵意のようなものを覚えるのです。これが最初に読んだときの印象でしたが、(活用するというよりも娯楽のために)別の観点から読み返してみますと、(私が活用できるようにそれを修正することで、「観察者」としての私を傷つけることにはならないと考えたのですが)敵意とはまったく違った感情になることに気づきました。そういった論考を無視してしまうことは、活字になるのをしびれを切らして待ち望んでおり、心中では私とともに人々の賞賛を共有したいと望んでいる書き手にとっては非常に酷なことだと考えますと、知らず知らず最も柔和で寛大な感情である同情を覚えたのです。これは体験したことのある人にしか分からない喜びです。このようにして論考を考察してみますと、実際のところ公平に評価していなかったことが分かりました。論考の中には実にもっともで特に優れたものがありますので、これを改竄してしまいますと明らかに元の内容を傷つけ歪曲してしまうものと思います。それゆえ、これ以上私が公表を遅らせてしまいますと、彼らを不当に扱うだけでなく、世間の人々から少なからず満足感を奪い取ってしまうものと考えます。

こういった観察者の方々の意見を公表してみますと、その首尾は私の傑作をしのがないとはいうものの、これに匹敵するものと思います。ある書き手は自らの出来栄を卑下するために、あらゆる方法を駆使しています。このような論考が世間に明らかになりますと、多くの信奉者が出現するに違いありません。公表するまでに時間的余裕がほとんどありませんが、私は愚痴を言わないことにします。私自身のことよりも皆さんの安寧と皆さんのためになることを考えますので、今後はそれに値する観察者のお考えはいかなる修正も加えずにそのまま公表することにしました。(必要があれば)私の考えは控えたいと考えています。そして、書き手の皆さんが署名を適当とお考えであれば、お名前も載せます。

この高潔で有益な考えを促進する最善の方法は、ありとあらゆる種類の主題つまりテーマを割り当てることだと思います。(人々に生じるなみなみなぬ恩典と利点があるという前口上を述べて)あらゆる人々にご意見をお寄せいただきたいと思います。学者、市民、廷臣、町や田舎の紳士、伊達男、道楽者、気取り屋、淑女ぶる女性、媚を売る女性、主婦。男女を問わずあらゆる才人、真の才人、半端才人、悪賢い才人、退屈な才人、生来の才人、正真正銘の才人、墮落した才人。厳格な人、陽気な人、厚かましい人、愛想のよい人、思慮深い人、おせっかいな人、軽率な人、穏やかな人も陰鬱な人も、快活な人もふさいだ人も、片意地な人も吞気な人も、冷淡な人も血の気の多い人も。野心家も謙虚な人も、高慢な人も不憫な人も、高潔な人もさもしい人も、善良な人も意地悪な人も、公共心のある人も利己的な人も。資産とか事情も関係なく、満ち足りた人も惨めな人も、幸不幸関係なく、身分の違いも関係なく、(お金がないあるいはもっと欲しいと思うためか)貧富関係なく、健康体とか病体も関係なく、既婚未婚も関係なく、背の高さも太っているか痩せているも関係なく。職業、身分、国籍、派閥、党派、信条、人柄、年齢に関係なく、考えることを仕事ないし気晴らしの一部にしており、各自の能力にしたがって世の中に公表するに値することをお持ちで、その知識と経験を伝えることで人々のためになるとお考えの方々は是非とも寄稿していただきたいと思います。その論考が他の人々からいわく言いがたい喜び

でもって受け入れられているのを見ると大きな喜びを覚えるに違いありません。

あらゆる人々が、それぞれの身分、年齢、性別、教育、職業、気質などにしたがって論じるさまざまな思考や意見が日の目を見るとき、彼ら自身は自分たちの論考が公表されるのを心待ちにしているのですが、私としてはあらかじめ読者にこのうえない期待を抱かせるつもりはありません。

本日投機家のために用意する課題はお金です。この論題について寄稿を希望される方は本日から10日以内によりしくお願いします。

第443号 1712年7月29日（火曜日）

【スティール】

目の前からいなくなってしまうと、
物欲しそうな眼差しで彼女の姿を追い求める。（ホラティウス）¹⁾

カミーラより観察者様へ²⁾

7月10日ヴェニスにて

観察者様

ご自分の国の著名人がたとえグレート・ブリテンの領土内にいないとしても、貴方がこういった人たちのことを貴方の注目の範疇においておられないことを私はとても不満に思っています。私は若い頃には親愛なるイングランドから離れていることを幸せだと思えるなんてことはほとんど考えてもいませんでした。ところが成長して大人になってみると、自分の美点が高まっているわりには受け入れられていないことに気づいたのです。イタリア人の耳はイングランドの人たちの耳の構造と大きく異なっていますので、私はステージに立つことはなく、大きな満足感とは人々の顔の表情に現れるにすぎません。私が音を長く延ばしますと、男の人たちはみんな私と一緒に頭を傾け、私の声が弱まるに連れて一方に倒れ掛かるのです。女の人たちもまた私の美点を認めてくれ、私が役に没頭していても、「自惚れの強い女だ」と叫ぶような意地悪でつまらない人はいません。聞いている人たちはいつの間にか私の声の力に感動するのです。当地では、私は優美な人に意気揚々とした物腰と素敵な声が豊かに与えられている人物として著名人の生活をしています。この不思議な国において、この特徴が敬意と寛大さを受ける論拠となっています。イタリア人は私が美点を見せびらかしていないことが分かっています。そしてそのことが、母国では認められない私への不当な扱いの埋め合わせとなっているのです。母国の人たちが持つ

1) ホラティウス『頌詩』3.24.32

2) 『タトラ』紙20号におけるスティールの風刺的な描写を想起させるこの手紙は、イタリア・オペラで成功を収めており、ボノンチーニのオペラでカミーラ役を演じたキャサリン・トフト夫人が書いたとのこと。彼女は人気絶頂の1709年に理性を失い隠退したようだ。アート・コレクターでヴェニスで領事をしていたジョゼフ・スミスと結婚し、ヴェニスに住み、当地で舞台に立ち、1756年に死亡し、当地に埋葬された。

ていらっしやる「シーツという気質」については、私は何一つ知りません。彼らはため息の中で賞賛し、声の抑揚でもって演奏中の人物に協力するのです。私はしばしばわが同国人の不満の訴えをしている詩を思い出します。アラベラの歌に耳を傾けるために持てるあらゆる力と呼び寄せようとしているのです。

静かにするのだ、穏やかな動きもすべて止め、
耳障りで乱れた思いも安らかにしておくれ。
激しい息づかいも、死の腕に抱かれたように静まってくれ。
移り気で落ち着かず、心もとなくさ迷っている私の心よ、
じっとするのだ、静かに、静かにするのだ。
鼓動も止めておくれ。乱れてとめどなく、
洪水の如く流れる血もそっとその流れを止めてくれ。
すべて静まり返って耳をそばだてるのだ。³⁾

私が歌っている間は、ハント夫人の歌を聞くこの礼儀正しい人のように、ヴェニス中が静まり返ります。だが人々が沈黙を破り、私に向かって「なんて素晴らしい、天使だ、ヴィーナスだ。なんて素敵なお身のこなしだ。シーツ、また歌うぞ」と大きな声を上げて賞賛するとき、私は何とも言い表せない喜びを覚えるのです。聴衆の邪魔をし、人々の平穏をかき乱すような騒々しい才人はいません。観察者様、私は当地にて心安らかに満ち足りた生活を送っていることをお知らせするために急遽お便りをしたための次第です。私は帰国しますが、貴方がイングランドで大いに活躍下さることをお祈りしています。貴方はいつも私を賞賛してくださっていたことは承知しています。

敬具

カミーラより

追伸：私はイングランドにいたときよりも10倍いい身なりをしています。

観察者殿

商業界の情報と知識を促そうとする貴殿の今月11日の企画を高く評価しています⁴⁾。若い商人への有益な講話は、彼らの行いに大変いい結果をもたらすかもしれません。しかし、商業に対する間違った考えを広めないようにお気をつけ下さい。寄稿者はさもしい方法をよく見えるように発表し、誤まった言い方をして惑わせてはならないのです。利益を上げる方法としては、私は方法自体が賞賛に値するものしか持ち合わせていません。雑音を勤労と、厚かましさを勇気と考えてはいけません。また、幸運を優れた経営手腕と、貧困を愚行と考えてもいけません。必ずしも倒産が浪費、資産が予見のせいではありません。客

3) ウィリアム・コングリーヴの頌詩 On Arabella Hunt Singing の第1スタンザ。

4) 第428号参照。

齋は巧みな儉約ではありませんし、寛大さは気前のよさでもありません。

オネスタスは善意の思慮深い商人で、資産家であり、信用で商いをしています。彼はお金をととても大切に使い、使用人を騙すようなこととか貧しい人々を苦しめるようなことはしません。フォーチュナタスは無知の塊で、その結果、頑固一徹です。彼の財の質は判断力の質にふさわしいものとなっています。オネスタスは洞察力のある人々を喜ばせ、お得意客にしています。彼は家族の支えで、慎み深い方法で儲けも控え目です。一方、いつも威張り散らしているフォーチュナタスは強引に振舞い、分別のある人々が嫌になる追従をしながら、色々約束するがほとんど約束を果たしません。彼はあらゆる人々を攻撃し、その多くを奪い取ります。要するに、同じような商いをしている人々たちを手玉にとって落胆、破滅させることによって、かなりの財を築いているのです。

私はここでは曖昧な心得しか述べませんが、貴殿が今着手なさっている領域に関しては慎重に取り扱っていただきたいと思います。上首尾にやっていただけますと、大いに有益なものとなるに違いありません。なぜなら、今期待されていることは、いつの場合も自由教育を受けた人に付随する自由で高潔な心が示す単調な勤勉さなのですから。

敬具

R.C.

7月14日、王立取引所近くの商店にて

1712年7月24日

観察者殿

貴殿は観察者としての知識を駆使して、機知よりも厚かましきで際立つ人々に対して繰り返し非難なさっておりますが、依然として厚かましい軽薄な人々が後を絶ちません。こういった人々はこれを奨励する機知を備えているのです。さらなる時宜を得た非難がどうしても不可欠です。そういうわけですので、若者をはやしたててうろたえさせる場合には浮かれ騒ぎとか上機嫌といったものは関係ないのだということ、また、辛らつなからかいに「赤面させる」ようなことを入れるのは機知に相当しないということ、こういった紳士にはきっぱりと知らせてあげて下さい。さらに、彼らにはまた、自分たちの知っていることを喋ることは不快なことであり、意地悪さと頭脳の貧困さに起因するということをお知らせ下さい。特に、話題にからかいの入り込む余地がなく、諷刺も侮辱する意図以外他に何も無い場合にはなおさらそうです。私としましては、日々同じような高圧的な傲慢さが繰り返されることは一層認められないことであり、驚くべき鈍感さの裏づけであることに貴殿が目留めてくださると大変嬉しく思います。これを直ちに公表していただけますと、この種の不快な人物に効き目があるものと考えます。彼らを矯正することは、私たちの満足と平穏に大きく寄与してくれるものと思います。

敬具

F.B.

第444号 1712年7月30日（水曜日）

【スタイル】

山々は陣痛の苦しみを味わっている。（ホラティウス）¹⁾

私は思索によって世の中を変えようと試みていますが、次から次へとひっきりなしにごまかしや見せ掛けが、まるで猛獣とその餌食の関係のように渦巻いているのを知って落胆しています。通りかかる人々に配布する褐色のビラで力量を喧伝している見劣りのする偽医者が詐欺師で人殺しだと分からないほど無知な人はどう見てもいないはずですが、教養のない人は軽々しく信じますし、こういった公言者は厚かましいものですので、事態は複雑になり、日々できもしない新たな約束がなされている次第です。この物笑いの種をさらに悪化させているのは、幾度となく約束されるが何一つ実行されないことが依然として流布されていることです。今日町を歩いていましたら、鼻の欠けた男から町に以下のような朗報が届いた、すなわち、旅から帰国したばかりの紳士の手で梅毒（フランス病）²⁾は確実に治ると告げるビラを手渡されたのです。

ドゥルーリー・レインのキャノンボール近くのラッセル・コート³⁾に、つい先だって旅先からこの24年間海陸で医術を磨いてきた外科医が居を構えることになった。有り難いことに、彼は黄疸、萎黄病、壊血病、水腫、胃のもたれ、長期の船旅や従軍から来る体の変調、流産、産褥などなどの治療に当たる。また、この30年間足萎えであった人たちも彼の腕を証明済み。要するに、彼は男女子供に降りかかるあらゆる病気を治すのだ。

怠惰のあまり悪徳および無知のために人々を襲うこのパニックを傍観できるとしたら、この熟練の旅人の布告についてコメントすることは相当馬鹿げたことになるに違いありません。無教養な人たちが遠方からやって来た人に頼むということは、そこに何かいわく言いがたいものがあります。無知な上流階級の人々は、こういった人は多くいますが、過度にこれに溺れます。私がことさらに列举しなくても、誰もが多くの実例を思いつくに違いありません。上流階級の人々のように、遠方からやって来たことで好評を博している人たちに気前よくお金を使えない下層階級の無知な人々も彼らを受け入れるのです。彼らは同じように敬服して自分たちの命を危険にさらすのです。

「当医師は最近旅先から帰ったところで、海陸ともに実践経験を積み、萎黄病、長期の船旅や従軍、さらには産褥の治療に当たる」海陸ともにですよ！ 私は「船旅」とか「従軍」なんて病気は聞いたことがありませんが、おそらく萎黄病や産褥に罹っている人たちは、当医師が陸上生活をしていたのであればうまく治るはずですが。人を操るコツは見つめさせて、驚きを維持させ、よく知らないことを吹きかけ、何かを隠し持っており、相手よ

1) ホラティウス『詩の技法』139

2) OEDによると、French Disease を梅毒の意味で使用した初出は1598年。

3) ラッセル・コートについては、第2号参照。

り洞察力が鋭いのだと思わせることなのです。私の知り合いに独創的な理容師がいます。彼は壊れたヴァイオリンや干した海の怪物のほかに、麻紐を用意しており、両端を釘でぴんと張り窓に留めています。そして、紐の上がり下がりて天候を示すために「雨、乾燥、湿気」などの単語を記しているのです。私たち偉大なる学者諸君は驚きそうにありませんが、私の前の椅子に坐って髭をそって貰っていた正直者のふりの客が、顎と顔の髭剃りをしている間終始この奇妙な出し物に目を留めているのに気づきました。顔も頭もすっきりすると、この客人は魚、つぎにヴァイオリンに目をやり、ポケットの中を探りながら、紐そして両端の単語を見ていたのです。そして気が変わって、私の友人にファージング銅貨ではなく6ペンス銀貨を差し出しました。私が言いましたように、商売のコツは驚きを保つことなのです。もし私の友人が魚の骨組みと小型のヴァイオリンしか持っていなかったら、銅貨しか貰えなかったに違いありません。ところで、今話題にしている医師は長期の航海と30年間足萎えになっていた人たちの証言を付け加えています。私がビラを受け取ったとき、同時にある利口な人物もそのビラを手にし、30年間の拘禁のくだりまで読み進め、当医師の能力になるほどと納得して立ち去りました。出産時に異常な出来事に遭遇したり人生のどこかで大変な災難に見舞われたりする気の毒な人たちは大勢います。どれほど無関係でも、人々はきっぱりと明言する能力に納得してしまいます。ウォッピング近くのマウス・アレー⁴⁾に、白内障の治療をする医師がいます。この医師の出しているビラによると、彼は皇帝に仕えて片目を無くしたとのことです。患者がやって来ますと、彼は自分が皇帝陛下の軍隊にいたことを裏付ける点呼名簿を見せます。そして、非常に上手に目を繰り出すのです。ヘルニアの子供に対して、父も祖父もそうだったと言って治療するなんて誰が信じるのでしょうか。ところで、バービカンのハーブの隣りにチャールズ・イングルストンという人がいますが、この人はこういった断言をすることでかなりな財⁵⁾をなしています。大半の人は第一印象に基づいて判断し、それ以上のことは考慮しないですべて受け入れるのです。人々は何か非凡なものを備えているのだと考えます。時として私の言うことが的を外すようなことがあっても人々は確信するのです。私は冒頭にラテン語の文章を引用しますが、読者の一人が第20号に目を留めて、「またまたラテン語かい、この人物はなんて素晴らしい学者なんだ」と言っているのに気づいて大いに満足しました。本日はこの学識のある医師に非常に馴れ馴れしい態度を取りましたので、この医師が真剣に取り組んでおり、彼を偉大な人物と見なさない人たちに誠実に約束を果たそうとしていると思われる点、つまり、8時から12時までと2時から6時まで3ペンスの料金で人々のために仕えていることをお伝えして、私の述べたことの埋め合わせをしなくてはなりません。

4) マウス・アレーはかつてアバー・イースト・スミスフィールドのちのディーン・ストリートにあったが、1827年、セント・キャサリン・ドックならびに倉庫建設のため無くなった。ウィリアム・ワッドはこの偽医師を評判の眼科医ロジャー・グラントだとしている (Nugae chirurgicae, 1824)。

5) 「かなりな財」は原文では a pretty money が、OED によると pretty をこの意味で用いたのはこれが最初の例。

第445号 1712年7月31日（木曜日）

【アディソン】

自分はそれだけの価値がないとあなたは言う。ルペルクスよ、
あなたがそう言うのならあなたは賢明だ。(マルティアリス)¹⁾

おそらく、本日は多くの卓越した著述家が最後の言葉を公表する日となります²⁾。印紙の重圧と近づく平和のために、他の何よりも戦争を楽しみとしている週刊の歴史家はほとんど存続できないものと危惧しています³⁾。何事であれ人々に伝える資格を持つために、新たな認可を必要とする白紙は大変厳しい道のりになることでしょう。要するに、印紙貼付が必要であり、その上、血腥い戦闘が起こりそうもないために、ここ数年一日おきに私たちにヨーロッパの歴史を伝えてきたあの薄い2つ折り版は消滅するのではないかと思います。地口の好きなひょうきん者の私の友人は、著述家たちを襲っている現在の死の運命を「落ち葉」と言います。

バクスター氏が亡くなったとき⁴⁾、「バクスター氏の最後の言葉」と刻まれた非常に優れた名言録が発行された記憶があります。これは大変な売れ行きであったため、ほぼ1週間後に、「バクスター氏のさらなる最後の言葉」と刻まれた第2版が登場しました。お別れの挨拶の形で暇乞いをする巧妙な著述家の中には著述をやめないで、おそらく形式やタイトルは異なるが、再度登場する意図を持っている人がいると考える根拠を私は握っています。それはともかく、今私のやるべきことは、読者に自分の考えを説明し、著述界を襲っているこの危機にあって、私がいかなる動機に基づいて行動するかをお伝えすることです。

私は、この24時間以内に発効される国会制定法によって罷免される著述家としてペンを放棄すべきか、それとも、私の思索を引き続き人々に届けるべきか、心の中で思案して来しました。ペンを放棄するという点で私を説き伏せる主張は、本屋から売価を2ペンスに上げなければ税金を払えないと告げられていることです。私は読者に出来るだけ安く学んで欲しいと切望していますので、本屋の言うことに従うのは極めて困難です。

しかしながら、どちらとも決まらない状態で理由をあれこれ並べ立てて見ますと、この

1) マルティアリス『警句』1.117.18

2) 翌日の8月1日に、新印紙税法 Stamp Act が発効された。石鹼・新聞・羊皮紙・絹などなどに課税された。紙半枚で半ペニー、広告には1ペニーといったように。スウィフトは8月7日付けのステラへの手紙で、「オブザーバー紙は落ち込み、メドレー紙はフライング・ポスト紙と一緒にし、イグザミナー紙は死に瀕している。スペクテイター紙は価格を倍にして維持している。いつまで持つか私には分からない。君も新聞に赤いスタンプを押しているのを見たことがあるだろう。スタンプを押すのに半ペニーかかると思うよ」と記した。事実、スペクテイター紙は2ペンスに値上げし、他紙も同じような対策を講じ、デイリー・クーラント紙は1ペニーから3.5ペニーに値上げした。

3) これは懸案のフランスとの和平条約のことに言及していることは確かである。

4) リチャード・バクスター（1615-91）は、清教徒の聖職者・著述家で、王政復古期に教会問題に卓越した手腕を示した。1691年12月8日に死去。

仕事の存続を嘆願する人々が優勢なのです。第一に、読者が費やす代金の償いとして、その代価に見合うだけのいろいろな知識を読者が受け取ることが期待されるからです。これに加えて、誰もがこれを精読して自分のものとすれば、2ペンス分だけ賢明になり、向上するのです。

ところで、正直言って、以上のことよりももっと説得力のある動機がもう一つあります。私は新聞にかかる税金は政府を援助するためのものと考えていることです。私には私が行なったり言ったりするあらゆることを曲解しようとする敵がいますので、彼らが新聞の断念を反抗心によって生じたものと見なすのではないかと危惧します。そこで、誰にもこれで非難させないことにしたいのです。そうです、全力を傾注して公共のために尽くすことで誇りを持ちたいと思います。もし国が私の働きによって日に5ないし6ポンド受け取ることになれば、自分が社会にとって非常に有用な一員であることを知って大いに満足することになります。どんな誠実な人も自分が暮す共同体に害をなす方法で豊かになることはないというのが定説となっている格言です。これと同じルールから、自分の働きによって自分のポケットよりも国庫に多額のお金をもたらす人物は同胞から賞賛に値するのだと断言できるものと考えます。

さきほど「敵」という言葉を使いましたので、読者には、党派に熱狂的になっている取るに足りない人たちのことを言っているのだとお知らせしておかなくてはなりません。要するに、何事につけホウィッグないしトーリーの目からしか考えられない狭量な人たちのことを言っているのです。この新聞を発行してからというもの、私はこういった便宜的、ご都合主義的、個人的思惑、当てこすりなどなどをする卑劣な面々から非難されて来ました。とはいえ、良識ある読者には、私が常に公平無私なテーマにしか関心がないことはお分かりいただけます。一言一句にあら捜しをして、そこに好感のもてない人物や事項を見つけ出す人々の非難を受けないように党派性と関わりのないことを書くことはいとも簡単なことです。

くだらないへぼ文士や声高な弁士のお陰で、この種のことに意見を述べる気はしません。私の名前は時折この軽蔑すべき連中から槍玉に挙げられるのですが、これまでこういった人々を非難して来ませんでした。実を言いますと、彼らに注意を払うと彼らを注目させることになるかと危惧しているのです。彼らは顕微鏡でしか見えず、拡大しないと観察の対象にできない微小の虫のような存在なのです。

本紙の敵の一端に触れましたので、同時に、本紙の味方、これはグレート・ブリテンのあらゆる身分、党派、職業の非常に著名な方々多数になるのですが、この方々に謝意を示さなければ、私は恩知らずと思われるに違いありません。私はこの是認が企画がすぐれているせいだと自惚れる積もりはありません。何か特定の動機とか派閥に基づいた情熱や偏見を持たずに真実や美德を示そうとする人物を支援、保護しようとするだけの正義がこの世の中にはあり、今後も引き続きそうなのです。かりに私に何らかの取り柄があるとすれば、それは嘲笑の砲列に新たな目を向けたことです。嘲笑は滑稽と言うよりもむしろ真剣に見える人に対して向けられます。あるいは、せいぜい邪悪なことというよりもむしろ当

世風でないことに狙いを定めるのです。私はどうかと言いますと、何らかの点で犯罪的でない限り、嘲笑しないように努めて来ました。不道德な人物は嘲笑的としています。手短に言いますと、悪徳と無宗教に対する新たな武器が出来ていないとしても、私は、少なくとも、頻繁に不信心と冒瀆と戦う武器をきちんと使用する方法を示して来たのです。

第446号 1712年8月1日（金曜日）

【アディソン】

何がふさわしく、何がそうでないのか、
何が優れており、何がそうでないのか。（ホラティウス）¹⁾

喜劇作家のうちまだ存命中の2、3名が舞台に別れを告げて以来²⁾、機知やユーモアや良識を発揮できないと知った後継者たちは節度のない軽率な筆致で彼らの模倣をしているに過ぎません。こういった作家は観客の不道德な堕落した好みを満たしているわけです。才能の劣る人たちがこの種の書き物をするとき、陽気であることと淫らであることの区別がつかえません。私が以下に記すのはこういった堕落した作品に関することです³⁾。

もしわが国の舞台がギリシアやローマに見られる徳を半分だけでも備えていれば、上流階級の人たちの言動に直ちにその影響が現れるに違いありません。宗教や信仰告白者をからかうことは当世風ではありませんし、道楽者は完全な紳士とは言えないのです。虚栄は顔色を無くし、人間性の飾りとなる資質はことごとくそれを備えていると敬われることになります。

もしわが国の舞台に、かつてのアテネと同じ規制があれば、同様の効果をもたらし、宗教、政府、および人々の国家崇拝を促進することになります。もしわが国の芝居が適切な検閲と規制を受けますと、最も高尚な娯楽で暇な時間を過ごすだけでなく、私たちは芝居から学びより賢明により向上するに違いありません。

わが国の劇場の淫らさについては、大きな苦情が寄せられており、露呈されているのにも関わらず、ほとんど矯正されていないのは、今日のとても奇妙な現象のひとつとなっています。願わくば、いつの日にか不道德さを抑制し、道德の向上と時代の改善に資するようになってもらいたいと考えます。現状が以上の通りで、悪習と堕落が行き渡っているため、多くの人々は高尚な気晴らしから締め出されています。人間性の完成と洗練のために創られたこの娯楽を享受することで娘が台無しになってしまうのでは、と父親は危惧します。アテネやローマの芝居は道德について書かれましたので、ソクラテスもキケロもしばしば観劇したものでした。

1) ホラティウス『詩の技法』308

2) おそらく、コングリーヴ、ヴァンプラ、さらにはウィッチャリーのことを念頭に置いているものと考えられる。コングリーヴは *The Way of the World* (1700), *The Judgment of Paris* (1701) で、ヴァンプラは *The Mistake* (1706) で、ウィッチャリーは *The Plain Dealer* (1677) でそれぞれ隠退した。

3) 第51号、第65号参照。

偶然のことですが、あるときカトーはローマの劇場に足を運んだのでした。フローラ祭に関わる芝居が上演されることになっていました。これは一種の宗教的な儀式だったのですが、上演にはいくつかの淫らな場面がありました。人々はそれを見るのを拒みましたが、カトーは席を立たなかったのです。これをヒントにして、マルティアリスはつぎの警句を作りました。偶然そういった娯楽に居合わせた経験のある真面目な友人に向けたものと考えられます。

時代の優れた監察官である貴方は、どうして
舞台の淫らな気晴らしを観に来たのか。
ひどい顔つきをし、まゆをひそめて、
一体全体貴方は何故ここにいるのか。
雑多な観客を見てみなさい。なんと軽薄で、淫らで、
愚かなことだろう。貴方はやって来たが、
直ぐに立ち去るしかないのだ⁴⁾。

この種の出来事は、ギリシアとかローマでは一生に一度あるかもしれませんが、彼らは賢明で善良ですので、夜毎の娯楽が淫らなものになることを許しはしません。この上なく分別があり徳高い人々はそんなことに熱中できないのです。悪徳を舞台に載せる場合は、悪徳に染まっている人物は賞賛を受けないように、詩人がそれと分かるように烙印を押して置くべきなのです。ところが、前述のわが国の喜劇を見てみますと、正反対の考え方に基づいて創作されていると、そしてまた、このルールは異教徒の舞台では効果的なのですが、キリスト教徒の舞台では考慮されないのだと思われます。同様に、古代の著者が守り、現代の才人たちが顧みないルールがもう一つあります。つまり、嘲笑するためには不適切なテーマを絶対に選択しないというルールです。笑いよりも恐怖や憐れみを喚起するようであれば、嘲笑のテーマとしては不適切なのです。そのため、夫婦の契りの侵犯を扱う喜劇では、テレンティウスほど洗練された著者は見当たりません。妻とか夫の欺瞞は高尚な悲劇を引き起こしますが、スキピオとかラエリウスのような人物なら近親相姦や殺人を喜劇にふさわしいテーマと見なしたに違いありません⁵⁾。一方、現代のほとんどの芝居の場合は、妻の不義がベースとなっています。老人が舞台に登場すると、必ずと言っていいほど、妻が寝取られることになります。少し生真面目とか初老の夫も、たいていの場合、同じ運命をたどります。勲爵士や准男爵や郷紳や治安判事たちが町へやって来るのは、ほかでもなくその目的があるからなのです⁶⁾。私は、気の毒なドゲットが間男されるのを見たことがあります⁷⁾。要するに、古代の喜劇作家たちが居候とか見栄っ張りな兵士に辛ら

4) マルティアリス『警句』1.1-4

5) 小スキピオとラエリウスの友情。二人とも教養があり、非の打ち所のない品行方正な人物だったとされ、キケロが称えている。

6) 治安判事については、第2号参照。

つであったのに対して、わが国の作家は、一般に間男という名で知られている悪気のない不幸な女性に辛らつたのです。

とはいえ、わが国の作家は事態をうまく工夫しますので、二人の罪人が観客のお気に入りとなります。私たちは静かに観劇し、終始この二人の幸せを願い、二人がうまく出会うと喜び、二人が落胆していると機嫌が悪くなります。実を言いますと、わが国の舞台に登場する洗練された紳士というのは、自分の細君には無頓着で、他人の細君と昵懇な人物ということになります。そして、立派な女性というのは、たいていの場合、陽気さと欺瞞を兼ね備えた人物のことになります。こうなるのは創作の不毛さのためなのか、マナーの墮落のためなのか、はたまた、人々の無知のためなのか、私には分かりませんが、わが国の平凡な作家たちには、女たらしでない立派な男とか、男たらしでない立派な女を考えられないのではないかと思います。

私は時々こういった背徳的な作家の著作から倫理体系を編集して『舞台の倫理性』といった本を出してみるといいのではないかと考えています。しかし、私の知人のある聡明な紳士がある計画を企てていますので、その気をそがれているのです。この知人は、自分の考えはすべて舞台に依拠し、人生におけるあらゆる状況にわが国の喜劇に登場する立派な紳士の格言や実例をお手本にする若者の物語を書き終えたようです。もし彼を説得してこの最新の著作を一部貰えたら、それを私の作品集の中に加えたいと思います。『ドン・キホーテ』とロマンスの関係と同様に、これは演劇に多大な影響を与えることは間違いないと思います。

第447号 1712年8月2日（土曜日）

【アディソン】

わが友よ、ある時代の習慣はそのふさわしい形の
先触れとなり、自然はそれに従うのです。(パリウス)¹⁾

しばしば人々の口の端に上っている「習い性となる」という格言²⁾ほど思慮分別を示すものはありません。実際、これによって人々は再生が可能ですし、持って生まれたものとはまったく異なった性向や能力を持つことが可能となります。プロット博士³⁾は、彼の「スタフォードシャー史」の中で、たまたま時計の鐘の音が聞えるところで暮すことになり、鐘の音を数えることを面白がった間抜けのことを語っています。その時計があることで壊れたとき、この間抜けはその時計がなくても、以前と変わらず時刻を数え続けたとの

7) トマス・ドゲット (c.1660-1721) は、シバー、ウィルクスとドゥルーリー・レイン劇場の共同経営者を務めた。5月13日、コングリーヴの *The Old Bachelor* では自ら舞台に立った。

1) エヴェヌス・パリウス (ウィンタートン編『ギリシアのマイナーな詩人』1677年、469頁)。

2) アパーソンによると、Custom is a second Nature というこの格言は、15世紀初頭にまでさかのぼること。

3) ベーコンは *Sylva Sylvarum* の中でコーヒーについて語っている。

ことです。私はこの話が真実だと言うつもりはありませんが、習慣が体に無意識のうちに影響を与え、同時に、心に尋常でない影響を与えるのは至極確かなことなのです。

本日の紙面では、習慣が人間性に与える非常に注目すべき影響について述べたいと思います。これがうまく行きますと、人生におけるとても有益なルールへと導いてくれるものと考えます。私がここで注目しますのは、あらゆることを心地よいものにするときに、習慣がとても効き目があるということなのです。芝居や賭け事に溺れる人は、最初はほんのささやかな楽しみしか見出しませんが、徐々に楽しくなり、ついには完全にのめり込んで行き、人生の唯一の目的のように思えてきます。隠遁生活ないし多忙な生活をしたいという気持は、無意識のうちに醸成され、そのいずれかに関心を持っていますと、ついにはしばらくの間使用をやめていたことを楽しむ資格はすっかりなくなってしまいます。いや、煙草を吸ったり、酒を飲んだり、かぎタバコを吸ったりしていると、それなくしては過ごせなくなります。言うまでもありませんが、特定の勉強、芸術、科学の喜びは、それに振り向ける熱意の度合いに比例して高まり向上します。このようにして、最初は練習だったものが長く続けていると楽しみとなります。労力が気晴らしに変わります。心は慣れ親しんだ行為を好むようになり、これまで歩きなれた道から引き離されることは渋ります。

最初は冷淡だけでなく苦痛であった行為も、習慣や実践することによって喜ばしいものになります。サー・フランシス・ベーコンは、自然哲学の中で、私たちの嗜好は最初は嫌悪感を引き起こさせるものに大きな喜びを見出すのだと述べています³⁾。彼は赤ワインやコーヒーやその他アルコールの例を挙げています。これらは最初に味わったときにはほとんど口の好みに合いませんが、いったん味が分かると、往々にして生涯その味を忘れないのです。心も同様の性質を持ち、ある種の運動とか作業に慣れると、最初に抱いた嫌悪感が無くなるだけでなく、ある種の愛着や愛情を抱くことになります。写本や記録を丹念に調べて古代の純粋な研究をした現代の才人の一人⁴⁾が、この仕事は最初は無味乾燥で退屈この上なかったが、ついには信じられないほど面白くなり、ウェルギリウスやキケロを読むことより好きになったのだと語るのを聞いたことがあります。読者は、私がここで習慣を、事態を簡単にするものとしてではなく、喜ばしいものにするものとして考えていることに気づかれると思います。同じような考えをしておられる人たちをよく見掛けますが、この用途については述べられていないと思われます。そこで、私は本日の紙面の後半はこの用途について述べたいと思います。

人間性が備えるこの特性を注意深く考えて見ますと、ここには実に細やかな道德観が伺えます。第一に、誰であっても他人の選択あるいは自らの必要性に迫られた生活や一連の行動によってやる気をなくさせられたくはありません。おそらく最初はとても不快かもしれませんが、習わしとして打ち込みますと、苦痛でないばかりか喜ばしく満足の行くものとなるのは間違いがありません。

4) ニコルスはフランシス・アッタペリーのことだと言っている。アッタペリー（1663-1732）はウェストミンスターの首席司祭（1713）を務めたが、ジャコバイトの陰謀に加担したとして逮捕され、ロンドン塔に幽閉され（1722）、国外追放となりパリで死亡した。

第二に、あらゆる人に、ピタゴラスが弟子に語ったとされているあの実に見事な教えをお勧めしたいと思います。この哲学者はこの教えを私が敷衍している考えから得たに違いありません。「最適の人生行路を選びなさい、そうすれば習慣がこの上なく喜ばしいものにしてくれます」⁵⁾ 自らの人生行路を選択できる境遇にある人々が賞賛に値する道を進まなかったとしても弁解は出来ません。理性に性癖に従うように強制できませんが、上述のルールによって性癖はついには理性に従うのですから、当座の性癖よりも理性の声に注意を払うべきです。

第三に、この考えはこの上なく淫らで不敬な人に、徳高い生活の遂行を思い止まらせがちな苦難や困難を無視することを教えます。ヘシオドスは、「神々は美德の前に労働を置いた。最初はその道はきつく困難だが、進むに連れて平坦で容易なものになる」⁶⁾ と語りました。堅実かつ不屈の精神で歩む人は、しばらくすると、その道は楽しい道であり、その道筋はみな平安であることに気づきます⁷⁾。

この考察を補強するために、さらに信仰の実践は習慣化した行為に自然に伴う喜びだけでなくその喜びを意識すること、理性の指示に従っているという満足感、幸福な不死の期待から生じる余分な心の喜びをも伴うのだと言うことが出来ます。

第四に、心に関するこの考えから、いったん規則的な歩み方が定着してしましますと、いかにしばしば無邪気な気晴らしや楽しみに没頭するかといったことに特別な注意を払うようになります。なぜなら、心は知らぬ間に徳高い行為の喜びを忘れ、徐々に義務の遂行の喜びを劣った無益な喜びと交換することになるからです。

人間性が備える習慣化した行為に喜びを見い出すというこの顕著な特性に関する最後の用途は、もし私たちが来世の喜びを享受したいと考えるなら、現世において美德の習慣を身に付けることが絶対不可欠だということを示すことです。至福の座である天国は、その資格のない心に影響を与えることはありません。来世で幸福をもたらしてくれる知識と完徳を味わうことが出来るとしたら、私たちは現世で真実と美德の喜びを獲得しておかなくてはなりません。現在の保護観察の期間内に魂の不滅を保証してくれる精神的な喜びと恍惚の種を植え付けておかなくてはなりません。要するに、天国は単なる報いとしてではなく、敬虔な生活の当然の結果と考えなくてはならないのです。

他方、長期間の習慣によって、肉欲の習癖とか悪意や復讐とか善や公正や賞賛に値するあらゆることへの嫌悪が身についてしまった邪悪な人には、当然のことながら、苦痛と悲惨が待ち構えています。彼らの苦痛にはすでに原因があり、肉体を剥ぎ取られたとき、神がある意味では新たに再生させ、奇跡を起こしその機能の修正をするのだと考えない限り、

5) この格言は、ベーコン、テイラー、ティロットソンたちによってしばしば引用された。

6) ヘシオドス『労働と日々』1.287-90 松平千秋は、労働の尊さについて「だが不死の神々は、優れて善きことの前に汗をお据えになされた、それに達する道は遠くかつ急な坂で、始めはことに凹凸がはなはだしいが、頂上に到れば、後は歩きやすくなる——」と訳出している（『仕事と日』岩波文庫 2011年第10刷、46頁）。

7) 『箴言』第3章第17節。

幸福にはなり得ないのです。実際、彼らは慣れ親しんだ行為にある種悪質な喜びを味わうことになります。現世では、満ち足りた気持ちにさせてくれる対象からは外されていますので、彼ら自身が当然のように自らを苦しめる存在となり、聖書でいう「地獄ではうじがつきず、火も消えることがない」⁸⁾ 痛ましい気質を育むことになります。この天国と地獄という観念は自然の観点に適合していますので、非常に高尚な異教徒たちの中にもそれを明らかにした人たちがいます。この観念はひと世代前の多くの著名な聖職者、とりわけ、ティロットソン大主教やシャーロック博士たちによって見事に活用されました⁹⁾。しかし、スコット博士がその著『クリスチャン・ライフ』¹⁰⁾の第1巻で見られるほどの気高い思索を行なった人はほかにはいません。この著書は英語あるいはその他の言語で書かれた神学書の中で最も素晴らしくかつ理に適った書物となっています。スコット博士は、あらゆる美德の習慣がごく自然にこれを実践する人に天国つまり幸福の座を、その反対にあらゆる悪徳の習慣がこれを実践する人に地獄をもたらし様を明らかにしたのです。

第448号 1712年8月4日(月曜日)

【スティール】

あなたはそのうちに敢えてもっと大きな罪に
挑むことになるだろう。(ユヴェナリス)¹⁾

細心の注意を払って悪の道に足を踏み入れないようにしなくてはなりません。なぜなら、悪の道にいったん足を踏み入れてしまいますと、知らない間に歩みを進めて、有徳を強烈に嫌悪することになるからです。人々が没頭するある種軽薄な欺瞞があります。この欺瞞はもっと激しく憎悪すべきです。私の言いたいのは、楽しみの集まりや同種の才能を持ち合わせた人たちが物好きで開く集まりなどのささやかでどうでもいい場での約束の不履行のことです。不誠実になる原因はいろいろあります。ジャック・シベットは友人とのディナーの時間を守ることはありません。彼は見栄で約束をする取るに足らない人物なのです。彼は自分がみんなの中で目立つにはどうしたらいいか分かっています。自分が入ってくることで少し妨害しようとして、みんなが席についている場合に登場するように気を配っているわけです。彼はみんなをかき乱して席に着き、作法は抜きにしてほしいと言います。そして、彼は招待されるほかのいろいろな場所でも人々を失望させるとんでもなく哀れな人物なのだと言いつづけます。もっと楽しい家の名を列挙し、この日は10箇所ディナー

8) 『マルコによる福音書』第9章第44節。

9) ティロットソン「説教集」8.13.131, ウィリアム・シャーロック「死について」(1689)。

ティロットソンは1691年から亡くなる1694年までカンタベリー大主教を務めた。

10) ジョン・スコット博士(1639-95)は、1691年にセント・ピーター・ル・プア、のちにセント・ジャイルズの教区牧師、1685年から亡くなるまでセント・パールの参事会員を務めた。彼の『クリスチャン・ライフ』は1681年に刊行され、その後版を重ねた。

1) ユヴェナリス『諷刺』2.82

があったのだがここに来ることにしたのだと知らせるのは洒落者の見栄なのです。幸いにも私が前回彼と食事を共にしたとき、彼はこれまで自分が招待されたディナーをすべて食べていたら、さぞや肥満になっていたに違いないと勝手に思い込んでいました。しかし、人々はその人物の事情から親切にせざるを得ないのですが、みんなを失望させるような見下げ果てた人物のマナーについて長々と論じるのは場違いなことです。とはいえ、誰もが会って見たいと思う同じような嫌悪すべき習癖がついている人々がいます。思いやりがあって待っているにもかかわらず、気楽に考えて、この上なく苛立ち一緒に食べたり付き合ったりするのを拒むのは情に欠けた仕草です。このような約束をする人は、時として、顔を出さないことに言い訳をします。遅くなりすぎたために仲間のうちの半数はいい加減な人物に会う大切さをないがしろにしたことを残念に思っているだけなのだ。人々は直ちにそのような人物を大事にしていたことを後悔します。そしてそんなことが繰り返されますと、みんなはそれ以上彼の約束を信頼しなくなります。その結果、彼はしばしば食事が半ば進んだところに登場し、みんなから陰で馬鹿にされ、主人の食事が長引くために自分たちのディナーが遅くなる召使からはののしられることになります。このように犯罪的な人たちがこの退屈な時間²⁾、みなが集まること、そしてディナーの少し前に待っていることが24時間のうちでも非常にきまりの悪い過ごし方なのだというに気づいたためしがないというのは不思議なことです。もし彼らに少しでも考える力があれば、相手に気をもませて心地よい生活の妨げをすることのうしろめたさを反省するに違いありません。このように絶えず相手に不快感を与えることは、ちょうど俗っぽい誓約が一種の常習的な破約になるように、その罪を犯す人物の誠実さに幾分影響を与えることになります。魂は誓いの何たるかに注意を払わなくなり、口先だけのものになってしまうのです。人々に向かって空虚な約束をちりばめた堂々とした演説をしている冗漫な雄弁家を見ていたフォキオンは、「自分は今イトスギを見据えているようだ。枝や葉や高さはこの上なく華やかで美しいが、残念ながら実はひとつもついていないのだ」³⁾と言ったのです。

無礼な約束者が持ち出す期待はこのように実を結ぶことはありませんが、不首尾に終わったあとでも彼らの自信はとて大きく、彼らは相も変わらず約束しながら生きながらえます。私はこれまで取るに足らない嘘つき、ほら吹き、空想家について述べ、彼らを下心を持った人物と見なして来ましたが⁴⁾。彼らは軽薄な嘘つきなのですが、快活さだけは備えています。とはいえ、私は実際には、どんなに些細なことであれ、無思慮な約束者を一切非難しないでやり過ごすことは出来ません。もしある人物が100ポンドを超える額の支払いを決断し、しかも別の人たちに15ポンド借りたとしたら、彼の信用度はどれくらい保てると思いますか。自分の状況に無頓着に簡単に約束する人物は、付き合いも仕事においても良好な評判を保ちます。

2) 「退屈な時間」原文 the whiling time の、分詞形容詞 whiling の用例として OED はこの箇所を取り上げている。

3) プルターク『フォキオン伝』752AB

4) 「嘘つき」「ほら吹き」については第136号、「空想家」については第167号で取り上げられた。

私はこの悪徳には厳しく対処します。なぜなら、不幸にして私自身がまさにこの罪人だったからです。美德が身につについてどんな些細な約束にも誠実であるサー・アンドリュース・フリーポートやその他私の友人全員から、私はしばしば非難されているのです。私はこの点では、特にこれまで最悪の失態には恥辱を覚えています。実は、いつものように楽しい紳士淑女の集まりがあったとき、素敵なご婦人方も見えられることになっていたのですが、私はまるで間抜けでもあるかのように、集合時間を間違え、翌日の夜に出掛けてしまったのです。こんないい加減なことをする愚か者誰も、私と同様に大きな浪費をしているものと思います。同じ仲間は二度と会ってくれないでしょうが、こんなことはあらゆる所で見受けられ、軽薄な人が出入りする数多くの場所で私が受けたような後悔をしている人が数多くいるのです。

立派な人は拒絶することで気取っており、打ち解けた人物でないとされると困っているときには、この罪は釈明がつきます。こういった非難を懸念するあまり、子供っぽい弱さをさらけ出し、親切にも誘ってくる人たち全員に約束してしまうのです。心優しい人々は善意の申し入れに図々しさに応じて見える不幸を背負うことになるわけです。誠実さを侵害してしまう第一歩は、人々が意識している以上に重要なことです。些細な事柄で約束を破ることに気が咎める人は、真実と正義に反することはどんな些細なことでも不名誉の原因だと考える人ほど、結果の不首尾に対して大きな苦痛を感じません。誠実さに自信があるなら、自分たち自身が好ましくないと思っていることは習慣化しないことが肝要です。

約束とは関係ありませんが、非常に不安な危険にさらす取るに足らない欺瞞を思い出します。ウィル・トラップとジャック・スティントは、約25年間にインナー・テンプルでルームメイトでした。ある夜、二人は共に1階席に陣取り、ある喜劇を観たのです。そこで、二人共、ボックス席にいる若い娘さんを目にとめ気に入ったのです。彼女への愛着は当人たちが考える以上に深く二人の心に刻まれました。スティントは恋文を書くことに長けており、彼女にこっそり手紙を送り届けました。一方、トラップはありふれたお金と彼女の侍女を利用しました。この娘さんは二人に色よい返事をしました。トラップのことは大いに気に入り、同時に、トラップには内緒でスティントに会う約束をしたのです。トラップは友人の手紙でのやりとりを怪しいと思い始め、スティントが自分たちの部屋に届く手紙をすべて開封するのは、密会をするためなのだと思いました。不安に駆られ落ち着かなくなると、トラップはお互いに妙な話し合いをせずに関係を断つほうがよいという思いに至りました。そこで、彼はテンプルの部屋ででっち上げの手紙をしたためました。スティントはいつものように手紙を手にとると開封したのです。そしてこれが身分宛であることに大きな驚きを感じ、大層動揺しながらつぎの文面を読み上げるのでした。

スティント殿

貴君は非常に恥ずべき罪を犯すという犠牲を払ってささやかな満足感を手に入れたのです。貴君は忠実な友を犠牲にして不実な女性を獲得したわけです。私の気持ちを貴君に打

ち明けるために思いついたこの方法を嬉しく思っています。そこで言いますが、貴君は卑劣です。貴君は侮辱にはさらされませんが、これを受けるに値します。貴君はけしからぬ人物ですが、それでも大胆にも公然とそのように非難する人物に仕返しをしようとするだけの恥辱を覚えていることは分かっています。そこで貴君から数多くの苦痛を覚えさせられている私として、自分の身を危険にさらすことなく仇を取りたいと思います。貴君のことをけしからぬと言います、貴君はそれに耐えるか認めるしかありません。貴君が私に襲いかかれないことに凱歌を挙げます。また、傷つけられたとき、待ち伏せしている敵を襲うために武装するのは不名誉なことだと思いません。

このような扱いを受けて当然のこの上なくけしからぬやり方をした責任を貴君に納得させるためにはこうするしかないのです。貴君は心の中で傷ついた友人の非難の正当性を認めざるを得ないのです。

ラルフ・トラップより

第449号 1712年8月5日（火曜日）

【スティール】

慎み深いご婦人のために編集された書物。(マルティアリス)¹⁾

公共のために尽くしている私の労力について考えて見ますと、友人であり後見人と公言している人々が厳しい扱いを受けていることがあるのを認めざるを得ません。つまり、私の著述には邪悪な人々に関する記述が数多くあるのですが、善良な人々に関する明快な賛辞はないのです²⁾。この手違いを確信しますと、すぐさま私の知り合いの何名かの女性を思い起こさざるを得ませんでした。この人々の人柄は、私よりも長生きをする書き物にして後世に伝える価値があります。この日刊新聞が続く限り、彼女たちのことを載せてはいけない理由はないものと考えます。そこで女性の読者のために、女性のお手本となりうる娘さんや細君や寡婦を何人か選び出したいと思います。このささやかな輝かしいヒロイン編のトップバッターとして愛すべきフィデリアを取り上げることにします。

彼女の人柄について詳しく述べる前に、前置きとして彼女が娘にぞっこんの老いぼれの父親の一人っ子だと述べておく必要があります。この紳士は娘が生まれたときからこの上なく優しく接し、成長を親の偏愛でもって見守り、やがて、娘がほかの子供たち誰にも負けないほど立派になったと考えました。しかし、彼女ならもっともっと向上すると考えたのでした。こうした溺愛は彼自身の幸福に非常に幸福な結果をもたらしました。というのは、彼女は読書もダンスも歌もスピネットやリュートの演奏も完璧にこなすからです。娘のこういった美点は、慢性疾患の苦しみで安楽椅子に坐った老人の気晴らしとなります。フィデリアは今では23歳になっています。数多くの求婚者からの申し入れも、旺盛な生活

1) マルティアリス『警句』3.68

2) スペクテイター氏は第302号でエミリアについて賛辞を送っている。

が待ち構えていることも、豊かな資産に恵まれた真に華美で優雅な生活が待ち構えていることもよく分かっているのですが、彼女を善良な老父のそばから引き離すことは出来ません。確かに、父親と娘の間に見られるほど純粋で無垢な愛情はありません。父親というのは娘を女性として、同時に、女性であることは無視して見つめることになります。細君への愛情には欲望があり、息子への愛情には野心が伴います。しかし、娘への愛情には何かいわく言いがたいものがあるのです。娘の生活はもっぱら家庭的であることが意図され、いつでも友であり伴侶になる用意ができていますので、男性の周囲で起こるあらゆることに女性の存在ということが付いて回ります。女性はまた当然運や潔白双方において危険にさらされることがよくありますので、おそらくその点からも溺愛の新たな原因が生まれるものと思われます。父親以外の誰もこの種の真の喜びや感覚は持ってません。だが、私はフィデリアの父親をよく知っていますので、私が耳にした彼の喋る言葉を書き記し、娘に対する彼の優しさについて述べることにします。

フィデリアに関しては、私が申し上げているように、美と機知と雰囲気と物腰もすべて申し分ありませんが、彼女の持てる時間はすべて父の世話に充てています。当代が生んだ最も美しい女性がひざまずいて老人がスリッパを履くのを手伝っている様子を目にするのは実に感動的なものです。父に対する子としての思いやりが、彼女の気晴らしであり、務めであり、誇りとなっているのです。彼女は亡くなった母の友人から自分の息子の求婚を受け入れて欲しいと頼まれたとき、息子さんに代わって打診してくださったことは大変有り難く思いますが、父の存命中は余生を幸せて安楽なものにしてあげようとする自分の努力を妨げることは、どんなことであっても受け入れる積もりはないと返事をしたのです。このご婦人は笑いながら人生の最盛期についていい論ずのでした。これに対して、フィデリアは常に偽りのない徳に備わっている率直な気持でつぎのように答えました：奥様、優しい愛情を注いでくださる立派な方とご一緒になると大きな満足感を得られるのは確かなことです。でも、私が善良な人の苦痛をどれほど和らげているか考えますと非常に満ち足りた気持になるのです。その人の幸福はひとえに私の心遣いにかかっているのです。そこで、私は確固とした義務感から感情のみだらな喜びを手にすることは喜んで捨てることにいたします。私がどなたの妻になるのか、またそんなことが許されるかは分かりませんし、今でも危惧しているのですが、妻としての私が現在の親に接するほど従順になれるのかも怪しいものなのです。この幸福な父親は、自分の存命中は結婚しないという娘の告白を聞き、その決意が娘を不安にさせていないことが分かって喜びます。子としての愛情がこの上なく美しく飾り立てられるとしたら、父が起きているときも、食事のときも、休んでいるときも終始その世話をしているフィデリアの姿を見るほど子としての愛情が生き生きと感じられるものではありません。

ほとんどの若い娘さんが鏡に向かい、舞踏会とか会合とか芝居を意識しているときに、人柄も機知も財産も会話にも際立つうら若いご婦人が、そういった楽しみをすべて軽蔑して老いばれた親と過ごす耐え難い時間を快い時間に変えているのは、まさしく高潔な忍従と言えます。フィデリアは花嫁の美しさを備えながらも看護人の務めを果たしているのだ

す。また、父親が病のためにお客を受け入れることができず、自分が応対することになる場合でも、父親の世話をしているからといって自分の容姿をないがしろにするようなこともありません。

父親のことで自分の青春を諦めてしまっているフィデリアは、ドレスが汚れることを大きな犠牲だと思ふことはありません。衣服にきちょうめんに配慮していることで、父親は娘の気持が積極的であることを確信します。彼女は女性が持つうわべだけのだらしなさを称える気持に大きな影響を与えます。この善良な老人の楽しみに添えられることに、手紙を届けてくる恋人たちは長所と財産を無視できないのですが、フィデリアは口説き落とそうとする文章に目を通し、とても陽気にスピネットを弾き続けます。(彼女がスピネットを弾いているとき、あなた方は色恋のことだけを考えているのだと思われるかもしれませんが) 実際は、彼女は父のことが心配なのでそんな喜びは嫌なのだと言父親にほめかしているのです。

自分のことを育ちの良さと色恋のお手本だと考えている人々は、この老紳士がくつろぎ、お客を迎えることが出来る時には、非常に優秀な人々が集まってくるのだと聞くとびっくりするに違いありません。そこでの会話はいい人の悪口を言うようなことはなく、男女間の善意にも情熱が入り込むこともありません。ごく自然にかつ偶発的に道徳についての高尚な話題が俎上に上ってくるのです。こういったことはすべてフィデリアの天分がなせるわざであり、彼女のお陰で父親は心置きなく来世に向かうことが出来ます。そしてまた、現世における父親の名に敬意が払われることになるのです。

観察者殿

小生は先日貴殿の短い顔を拝めるものと思ってベア・ガーデンにいたのです³⁾。だが、残念ながらお会いできませんでしたので、貴殿の鋭い観察眼をうまくすり抜けた剣闘士たちには不可解な点があるのだと手紙でお伝えしなくてはなりません。といいますのは、近くの居酒屋のボックス席にいたとき、2人の剣闘士がまた争うことで意見が一致しているのを漏れ聞いたのです。これはその夜会合を持つことになっていた一団の剣のかごつかクラブの人たちのいるところでのことでした。2人の話がまると、一方が他方に、君はカットをするかい、それとも受けるかい、と尋ねました。すると相手方は受けると答えたのです。それに対して、君は激情型かいと応じました。君が打ち合わせた以上のカットもせずひどくかかってこなければ、激するようなことはないというのでした。皆はいかさまの闘いにはお金を出すことはないのだということを貴殿にお伝えするのは小生の義務だと考えたわけです。

さびついたさやの持ち主より

3) ベア・ガーデンについては、第436号参照。